

団体名	富山県教育委員会
-----	----------

【事業概要】

1. 事業実施前の現状と課題

(事業実施前の状況)

これまで、県立特別支援学校が連携し、所在地域や対象障害種別、学校の特色に応じて役割分担をしながら、地域の小・中学校等への相談支援等を中心に特別支援学校のセンター的機能を果たせるよう取り組んできた。

各特別支援学校のセンター的機能を充実させるため、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターや教員個々の専門性を高めることを目的として、「富山県特別支援教育総合推進事業」による地域別の「小・中学校特別支援教育コーディネーター連絡会議」や、地域別・県全体の「特別支援学校特別支援教育コーディネーター連絡会議」を通じ、研修の開催や小・中学校等のニーズ等に関する情報交換を行ってきた。また、各特別支援学校では、各校のニーズに応じて、専門家を招いた実践的研修を実施してきた。

(課題)

地域の小・中学校のニーズに応えられるよう、

- ・新たに開校した高等特別支援学校2校を含む全ての県立特別支援学校(計13校)が連携し、所在地域や対象障害種別、学校の特色に応じた役割分担を明確にする。
- ・特別支援学校の特徴に応じた外部専門家(言語聴覚士、理学療法士、作業療法士、心理学の専門家等)と連携する。
- ・実際的な指導に直接生かせるよう、実際の指導場面を研修の場とする外部専門家を活用した実践的研修会を重視する。
- ・地域の小・中学校等に公開するとともに、その研修で得られた知見を活用できるよう特別支援学校特別支援教育コーディネーターの専門性を一層高める。

平成25年度は、各学校でそれぞれの役割や特色に応じた実践的研修に積極的に取り組み、事例の蓄積によって専門性を高め、センター的機能の強化充実に向けたベースの年とする。

2. 事業を通じて得られた成果と課題

(事業概要と成果)

① 各特別支援学校における実践的研修会の実施

○各学校が、所在地域や対象障害種別、学校の特色に応じた今日的課題等に応じ、外部専門家を活用した実践的研修(13校で年間208回)を実施し、地域の特別支援学校や小・中学校等に可能な限り公開した。

- ・外部専門家を活用した実践的研修の積み重ねや研修成果の情報交換により、各学校の障害種別や今日的課題に応じた専門性を向上させることができた。
- ・公開された研修への参加を通じて、一人一人の障害の状態に応じた具体的な支援方法が共有でき、外部専門家の指導・助言をそれぞれの学校での支援に生かすことができた。

② 特別支援学校全体研修会の実施

○言語聴覚士及び作業療法士を講師とした実践的研修会の好事例を特別支援学校の教頭及び特別支援学校特別支援教育コーディネーターで共有した。

- ・言語聴覚士及び作業療法士の教育に係る役割、外部専門家と実践的研修を行う際の事前・事後の情報交換のもち方、外部専門家と教員の役割分担、実態把握の観点、指導法等について認識を深めることができた。

③ コーディネーター連絡会議等を活用した情報交換、センター的機能の理解・活用の推進

○地域別の「小・中学校特別支援教育コーディネーター連絡会議」や地域別・県全体の「特別支援学校特別支援教育コーディネーター連絡会議」を通じ、研修の開催や小・中学校等のニーズ等に関する情報交換を行った。

- ・小・中学校特別支援教育コーディネーターと特別支援学校特別支援教育コーディネーターで一人一人の児童生徒等に応じた支援の方法や校内支援体制の構築に係る対応策を深めることができた。

(課題)

- ・一人一人の児童生徒等への適切な支援を行うため、特別支援学校や小・中学校等の特別支援教育コーディネーターの児童生徒の実態把握の力量や学校コンサルテーションの技量を高め、その技量が各学校で引き継がれていくことが大切である。

3. 解決策（次年度の取組等）

平成26年度は、実践的研修を地域の小・中学校等の実情に応じて段階的に実施し、小・中学校に在籍する児童生徒への支援に生かせるようにする。その際、特別支援学校と地域小・中学校等との連携の仕組みについても考察し、双方の児童生徒への支援に役立つものとする。

① 特別支援学校における専門性の向上と幼・小・中・高等学校への支援の充実

- ・各特別支援学校における外部専門家を活用した実践的研修の積み重ねや研修成果の情報交換により、各学校の障害種別や今日的課題に応じた専門性を向上させる。
- ・小・中学校等は、公開される研修への参加を通じて、学校における一人一人の障害の状態に応じた支援の充実を推進することができる。また、特別支援学校とのネットワークを強化することができる。

② モデル校における研究の推進

- ・インクルーシブ教育システム構築モデルスクールのモデル校に対し、関係特別支援学校のセンター的機能を活用し、ニーズに応じた支援を行い、研究の推進を図る。

③ 小・中学校等の円滑なセンター的機能の活用

- ・地域における各特別支援学校の役割について小・中学校等と共通理解することで、地域（県全体）における小・中学校等への支援体制を充実することができる。

④ 外部専門家と教育機関、学校とのネットワークの拡充

- ・外部専門家やその所属する機関や団体等とのネットワークが構築でき、各学校のニーズに応じた人材の選択が容易になり、これまで講師の選定に費やしていた時間を短縮できる。

【推進地域及び指定校一覧】

推進地域	指定校	
全県	1	富山県立富山視覚総合支援学校
	2	富山県立富山聴覚総合支援学校
	3	富山県立高岡聴覚総合支援学校
	4	富山県立にいかわ総合支援学校
	5	富山県立しらとり支援学校
	6	富山県立富山高等支援学校
	7	富山県立高岡支援学校
	8	富山県立高岡高等支援学校
	9	富山県立となみ総合支援学校
	10	富山県立となみ東支援学校
	11	富山県立富山総合支援学校
	12	富山県立高志支援学校
	13	富山県立ふるさと支援学校